

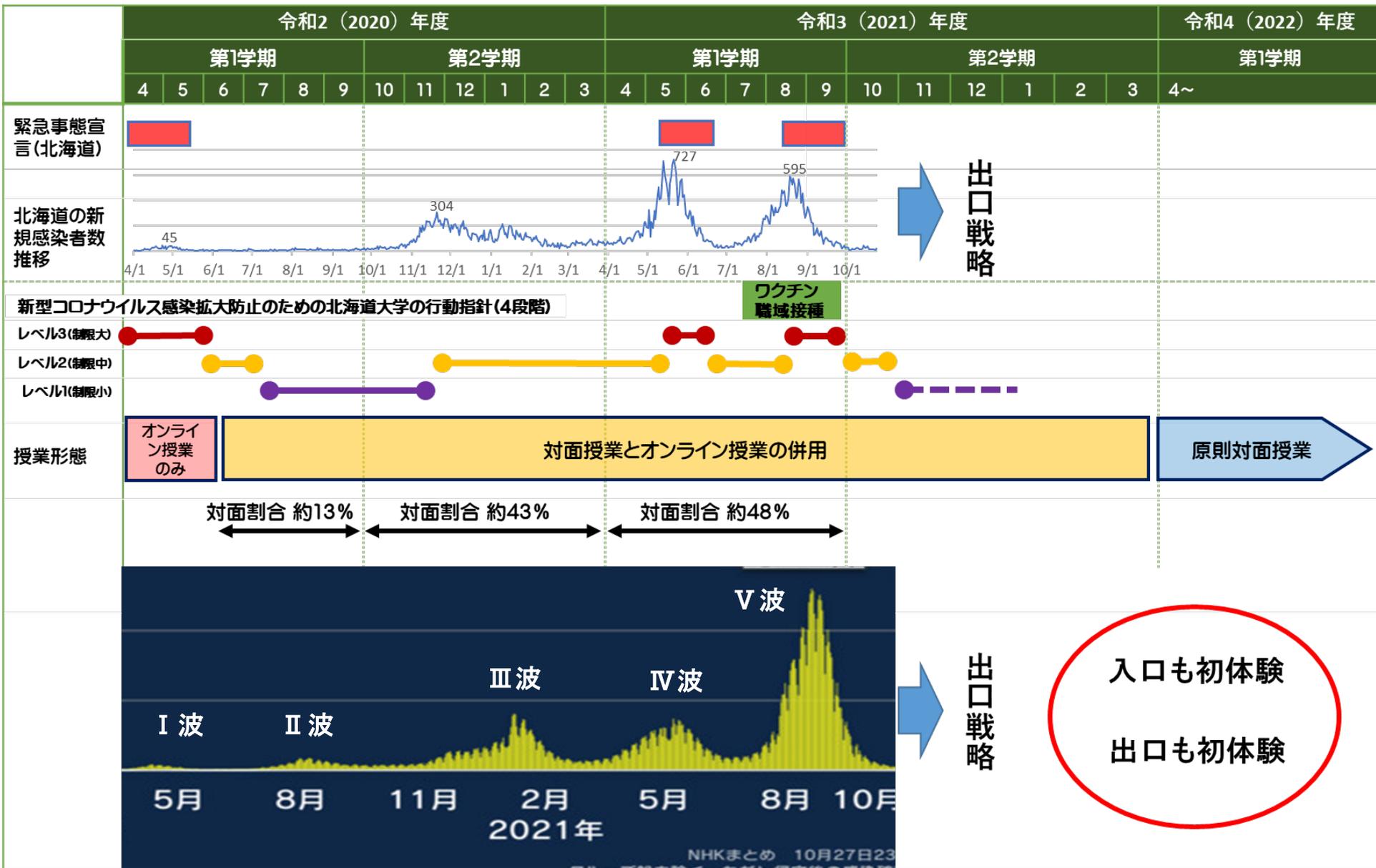


# ポストコロナへの高等教育の出口戦略

北海道大学総長  
寶金清博



# 北海道大学における授業実施のこれまでと今後の展望

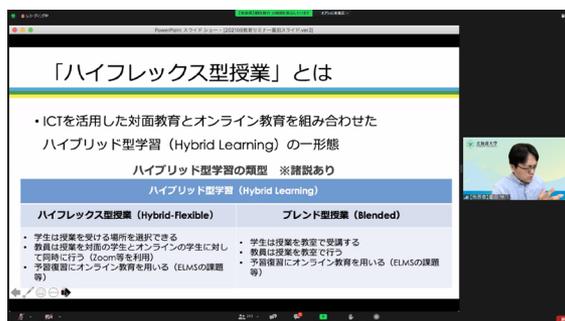


# オープンエデュケーションセンターを中心とした全学的なオンライン授業の3つの支援

## 1)「オンライン授業ガイド」の開設



## 2)教職員向けセミナーの実施



## 3)情報環境の整備



<https://sites.google.com/huoec.jp/onlinelecture>

- 教授設計理論に基づいた適切なオンライン教育手法を選択する指針を示す
- 2021年9月末までに学内外の29万人が閲覧
- 問い合わせへの回答を集約したFAQの蓄積

- 学内外の先進的教育手法とグッドプラクティスの共有
- 2021年9月末までに延べ3,000名が参加
- オンライン教育の情報共有向けSlackグループ開設

- 教育情報システム(ELMS)の利用増(4倍)
- Zoom包括契約の導入とELMS連携
- 学生に対するPCとWi-Fiルーターの貸与

# コロナ禍における授業実施方針

- 学生及び教職員の安全に最大限配慮することを最優先とし、対面授業を行う場合は感染防止対策を十分講じる
- 1)「新型コロナウイルス感染症への対応が当面続くことを前提とした教育」
- 2)「コロナ禍に関わらずオンライン教育の有効性を活かした新たな教育」
- 1)と2)の調整で出口を目指す
- コロナ後は、オンライン授業の様々な利点を活かし、授業形態、科目特性及び教育効果等を勘案し、対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを効果的に併用した授業を行う

# ハイブリッド型学習の推進

## ハイブリッド型学習 (Hybrid Learning)

### ハイフレックス型 (Hybrid-Flexible)

感染防止対策としての一時的な  
“Emergency Remote Teaching”

- 学生は授業を受ける場所を柔軟に選択できる
- 教員は対面の学生とオンラインの学生双方に対して授業を行う (Zoom等を利用)
- 補習等をオンラインで行う (録画映像の提供)

### ブレンド型 (Blended)

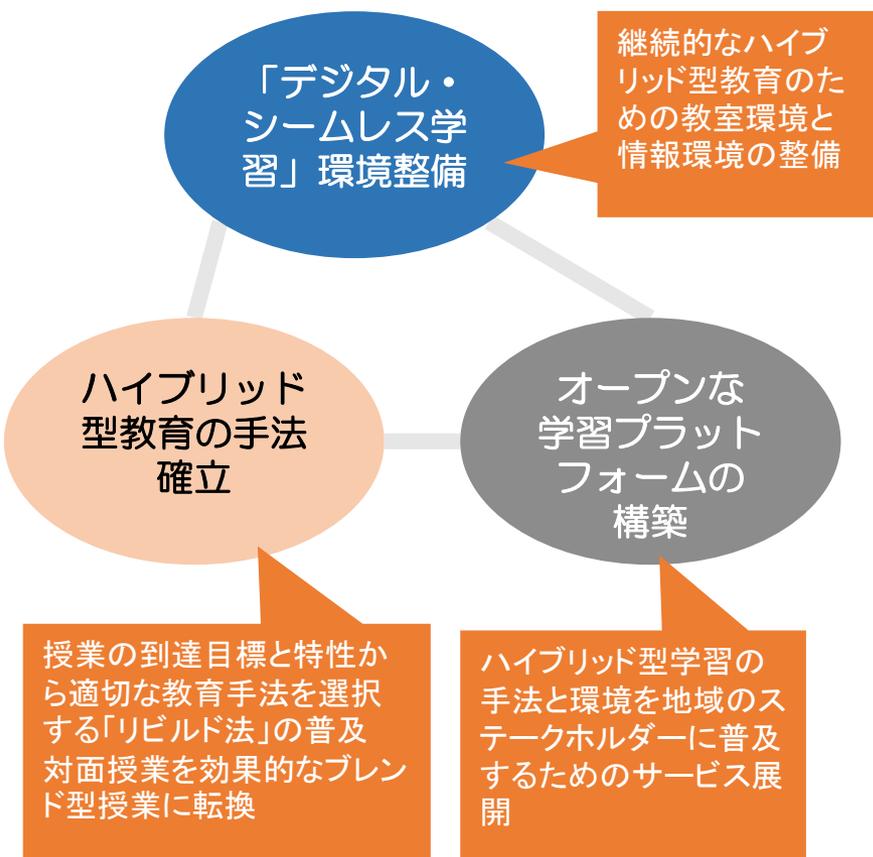
対面教育とオンライン教育を効果的に融合した  
“Online and Face-to-face Learning”

- オンラインで知識習得・自己評価 (個別最適な学び)
- 対面教育でのアクティブラーニング・協同的な学び
- キャンパスでの試験実施と教員学生間のコミュニケーション



# Plus-DX事業を活用した教育DXの推進

## ・DX推進計画



## デジタル・シームレス学習による 先進的学習環境の構築

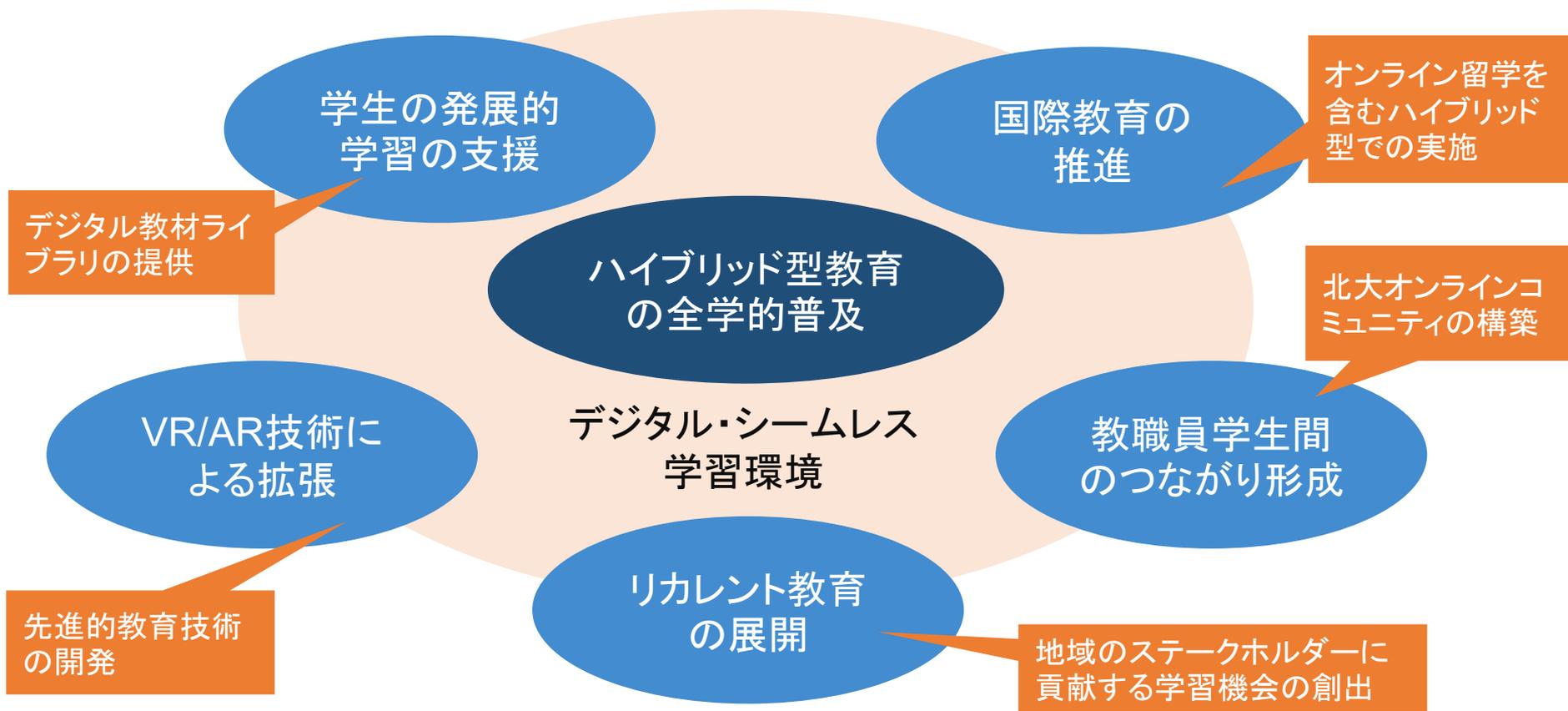
サイバー・フィジカル空間の境目を感じさせないトータルな学習環境



- キャンパス内の無線LAN拡充
- 感染防止対策を施した自習スペースの整備
- 既存の授業を効果的なハイブリッド型教育に作り替える「リビルド法」開発とツールキットの公開
- クラウドベースの学外用LMSの整備
- オンライン教育技術・デジタルリテラシー等のオンライン講座開設

# アフターコロナを見据えた教育DXのビジョン

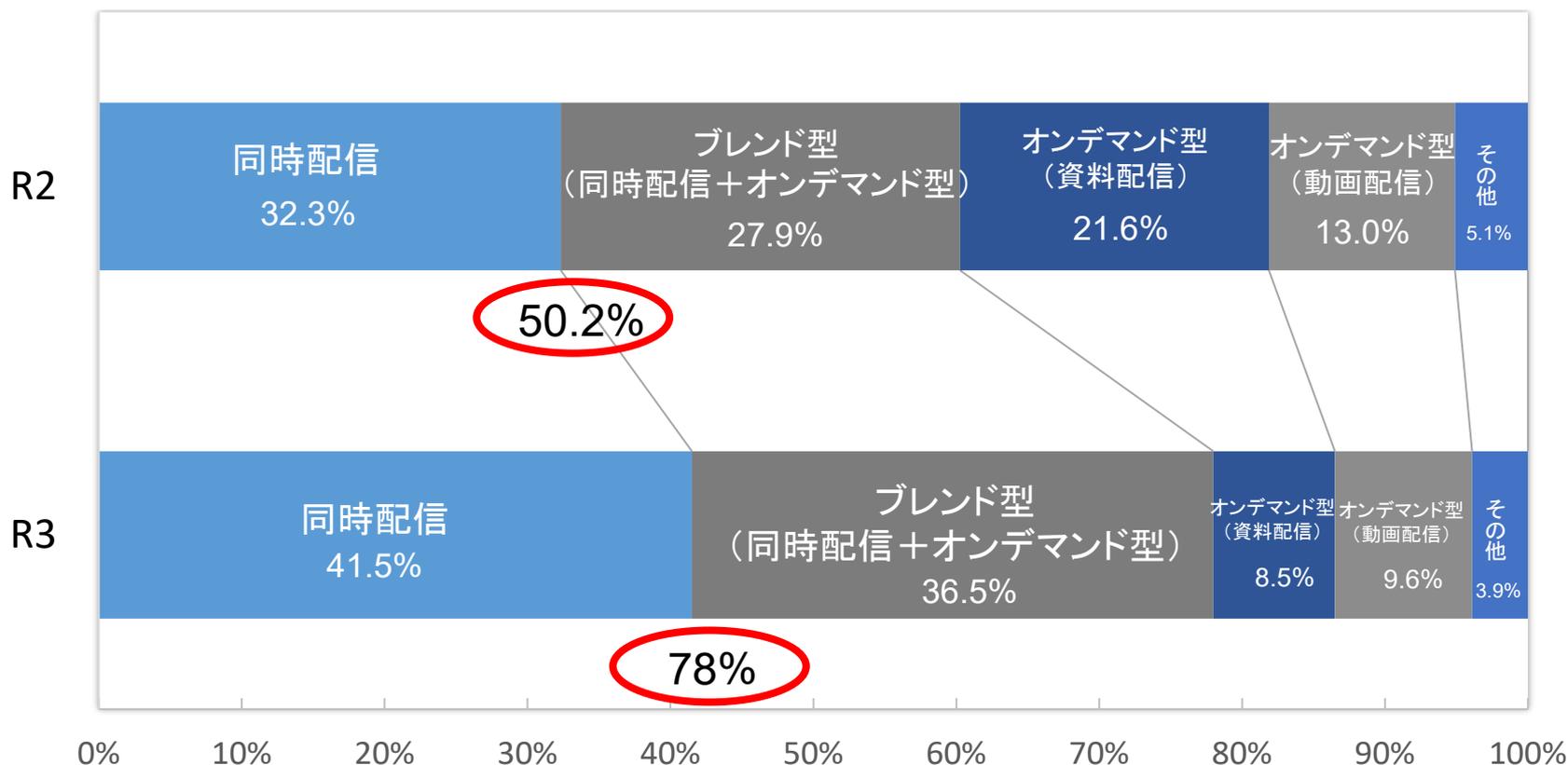
- ・ハイブリッド型教育の導入を基盤とした
- ・全学的なデジタル・シームレス学習環境の実現



# 令和2年度・3年度前期全学教育におけるオンライン授業の実施方法の比較

令和3年度は令和2年度と比べて同時配信とブレンド型が増加

- 1) Zoom等を用いた教員の教授スキルが向上
- 2) オンライン環境が整備された



# 令和3年度 教員アンケートの結果 オンライン授業の利点・課題

## オンデマンド型授業

- オンデマンド教材を理解度に応じて繰り返し視聴できる
- 学生は授業講時にとらわれず受講できた(とくに教室移動に左右されない)

## 感染対策

- 濃厚接触者も授業に参加できた
- 感染の心配なくワークができた
- 対面で感染対策上制限があるよりも、ワークが積極的にできた

## コミュニケーション

- 教員と学生、学生間でコミュニケーションが不足する
- 学生の反応が把握できない
- 授業前後の雑談が生じない

## 教員の負担

- 授業準備、課題の設定、課題の評価・コメントフィードバックに時間がかかる
- ハイフレックス型で機器の準備が大変
- 授業計画どおり授業が実施できなかった

## 令和3年度 教員からのオンライン授業の出口戦略に関する意見



- ブレンド型授業は一定のメリットがあるため、今後も継続したほうがよい
- 対面授業でもELMSを活用したい
- オンライン授業は、悪天候時、インフルエンザ流行時などにも利用できる
- ハイフレックス型授業の実施は、機器の充実やノウハウの習熟が必要
- 演習科目は基本的に対面授業にしたほうがよい
- 教材の共同作成・利活用ができれば、教員の負担軽減につながる
- 曜日で授業形態を定めるなど、全学的な運営が必要



## 令和2年度後期 オンライン授業に関する全学生向けアンケート結果

### 良い点

- 新型コロナウイルス感染への不安が軽減される
- 通学する必要がない
- 身なりにあまり気を使う必要がない
- いつでもどこでも受講できる
- 周囲に気を使わなくてよい
- 自分のペースで繰り返し学習できる
- 資料が電子媒体で管理しやすい

### 悪い点

- 受講生同士の交流が少ない
- モチベーションを保つのが難しい
- 実技や実験実習が難しい
- 通信環境に左右される
- 教員とのコミュニケーションがとりづらい
- 授業に参加しているという感覚を持ちにくい
- 電子媒体の資料が入手しづらい
- 質問がしにくい

※令和2年度前期には学生から課題の多さについて指摘があったが、改善されたと考えられる

# 保護者の不安・御意見

## 対面授業の再開を！

- オンライン授業では大学の価値は著しく低下する。
- オンライン授業でモチベーションが下がっているように感じる。
- 現場で教員の思いや熱を直に感じながらの方が深い学びになる。
- 教育の質が確保されていない。
- 授業だけではクラスターが発生する可能性は低いはず。

## 学生交流の制限緩和を！

- 貴重な青春時代の人間関係の構築に寄与する体制を整えて欲しい。
- 交友を深める場の設定を積極的にバックアップして頂きたい。
- 先生方とのつながりの充実をお願いしたい。
- 七大会を早期に復活してほしい。
- コミュニケーション力、人脈など、欧米の学生との違いが鮮明になる気がして不安。

教員はオンラインに前向き

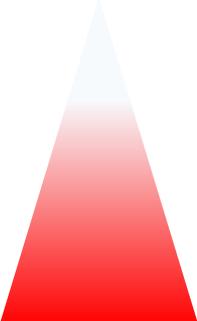
学生は現状を受容しているが、対面への期待

保護者は、不安、不満、情報不足

教員

学生

保護者



不安・情報不足

# 学生のリアルな声



## Discussion I

なぜ.. ステークホルダ ミーティングはのが?

企業のCSR活動  
社会貢献 ... 手前勝手にいい

本日のミーティングも...  
率直な対話で  
ポジティブに考える  
初対面も語る

見えない壁

Wi-Fiある? ない? ... 経済的格差  
格差の顕在化

授業の事前準備の工夫  
細差を入れる工夫 → 対面と違い  
スライドを重視  
講義のスライドへの応答、精  
授業で友誼づくり ... アシタック  
グループワーク

双方向のオンライン授業が必要  
きちんとコミュニケーションしたい

学生の皆さん おもてなし・困ると

<Good!>

- オンラインで他校との交流が増えた  
函館以外でもつながれる
- 木曜の... 授業の調整で非  
何れも観れる
- 実家で授業... 交通費いらぬ  
資料が入手できてありがたい

<Bad!>

- オンラインで受ると  
身が入らない
- 気軽に質問できない  
(先生と2人で話せない)
- 函館も札幌と同じ論  
納得はしない
- 休工期間... 近くに先輩が  
いたらよければ。  
↳ 学生仲
- 入学直後、友達との大変  
↳ グループワークで一緒に
- 大学キャンパスの使い方が  
わからない
- 問い合わせ多い
- オンライン授業のための設定  
わからない...

課題

学内の自信教  
自信や誇りを  
示すようにしてほしい

# Discussion 2.

今日の命を  
信じて生きて

チャンス  
対するもの

大学の縁  
「のびしろは多い!!」

対話の機会をつくるか?

不確実性

「その中で、これからの大学キャンパスは、  
どうあってほしい?」

学生は  
学ぶ深さを  
はかろう

学びを  
積極的に  
仕える

偉大なる  
学び

◎千葉大学での取り組み  
「どう活動していくのか?」を学生と共に  
アソシアティブとして **先進的!**

学生にとって  
価値ある大学  
を考えたい

母は「リベラリス  
社会で活躍する  
大学の中に  
明確な存在!

アソシアティブ  
課外活動

人間と人間がぶれ合う

◎どう「しくみ化」するか?

- 対面の機会作り
- オンラインの質は  
デジタルネイティブ  
への対応

学生にとって、**キャンパスライフ**が大切!

→ 友人とつなげれば、オンラインでも授業は  
大丈夫。 **様々のつながり** があると。

大学の  
リスク

学生の  
チャンス

コミュニケーション

2020年

2021年 Δ

大学のリスクを重視  
→ 1年でわかったことがある

◎北大の卒業...代々つづ

◎北大キャンパスの創りを体験  
してほしい

対面授業 - 環境整備

大学が  
for the  
LIFE LIFE

キャンパス、大学の意義

教科書で  
学ぶだけでは

◎先の人生に役立つ経験をおとすこと  
友人、専門分野の先生、別の専門と社会)  
社会非人とのコミュニケーションが、その後の決断に  
規模の拡大 → コミュニケーションが?

「不確実性」「先の見えなさ」が一番辛い  
→ しくみ化や情報開示で軽減する

「目的」「意味」

他者とつなげる ... 学生、教員、職員

社会とつなげる ... 自信を高く社会へ飛び込む場  
様々大学内 大学外に飛び出さずとも

未来とつなげる ... 学生の未来、大学の未来

場所性の欠如  
「キャンパスにいるの?」



キャンパス = 生活の場  
人と人の 触れ合い、つながり

↓

対面の豊か

「人としてのコミュニケーション」

キャンパスの資源

用途の未  
施設の使い方は  
NG!

キャンパスに誰もいない状況も解決  
学生の存在を感じさせる

猪。新。温。味  
学の生活の場 拡張

生に提供する Wi-Fi 場所  
授業以外で教室を使う

大学との  
コミュニケーション



ホワイ学務室!  
いつでも相談できる

- ・直接話せる場ほしい  
学生の要望を伝える場
- ・予想外に困ることへの対応
- ・決定へのアクセスも開示して伝える

キャンパスライフ! 学生同士の  
コミュニケーション

教員と学生の  
コミュニケーション

キャンパスの例  
ホワイとリアルで  
ミーティングにも活用

教員が  
学生をつなぐ

双方の  
授業

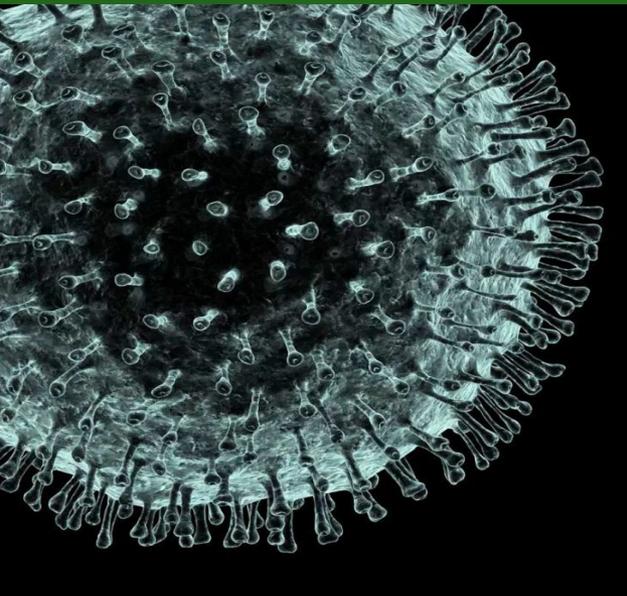
アタラシイガイダンス  
キャンパスのイメージ

このお話を  
お話しするよ  
キャンパスでの流れがある

自分からつながりを作っていくのが  
あたりほかた...

早目にどこかへ戻る以外必要

見えないうか? アクティヴなホワイ  
人間と人間が につながるかも?  
触れ合う 1年が過ぎ  
対話の機会 につながりに  
アクティヴな場 活かす  
様々な論点



# まとめ



- 1) 入り口も初めてだったが、出口も初めて: 正解探しも手探り
- 2) ”基本対面“は、授業のDX化を活用した新しい授業型式の始まり
- 3) 学生の“本心”への寄り添いが重要
- 4) 人間と人間が触れ合うキャンパスのあり方はさらに重要になる
- 5) 学生、教員、保護者間の情報格差の解消が必須条件



出口戦略では、学内外の情報提供と合意形成が入り口以上に重要